

平成 27 年度前期経済学部専門科目

「環境 NPO 実践論」

履修登録希望者へ (3 次募集)

下記のとおり、履修登録を募集しますので希望者は期日までに手続きをしてください。

●履修登録手続方法

3月30日(月)9:00~4月14日(火)17:00までに次の課題レポートを経済学部教務係のレポートボックスに提出すること。

課題「受講動機と、シラバスに掲載されている『授業のテーマと到達目標8項目』についてあなたが考えることを、A4に2枚程度にまとめてください。」

登録者発表日は4月16日(木)です。

●履修人数制限

20名

●履修対象者

経済学部及び他学部2年生以上

●時間割

金曜日4時限

●単位数

2

【2次募集までに応募した学生へ】

登録者発表日は4月16日(木)に変更します。初回の講義には出席してください。

平成 27 年 3 月 30 日
経済学研究科学部・大学院教務係

開講科目名	環境NPO実践論		
担当教員	萩原 喜之	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

テーマ：人類が直面してしまった大きな壁、「持続不可能性」について様々なアプローチが始まったが、その中で環境NPOの担う役割と可能性について探してみたい。

目標：～を知る、理解するのではなく、行動にいかに移していけるかという段階をめざしたい。

授業の概要と計画

授業の概要

持続可能な社会（＝環境）をめざすNPO（民間非営利組織）が、社会の課題解決に向けてどのように社会にアプローチしてきたのか、講師自らの活動体験を事例とし、さらなる方向性を共に考えていく。そして、そのことを通して、自らが社会の当事者となっていくこと（＝今後の自らの生き方）を模索する。

ESDサブコースという側面がある（人は自らをどのように変えられるか?）。

大学の授業の限界突破への挑戦。新たな授業スタイルを学生とともに創り上げる実証実験（今年で5年目）。

社会の現場において、問いも答えもひとつではない。

（大学はひとつの答えの導き方をすることが多いので）

脱受け身。自ら考えることを要求される授業。ワークショップ・ディスカッションが多い。

脱良い子。良くも悪くも神大生は良い子。

基本2コマセットで構成していく。1限目でテーマについて提示。それを受けて、次の授業でディスカッションとなる。その間に自らの問いを深めてもらうためにレポート提出がある。自らを見つめる。自らの将来を“くらし・かせぎ・つとめ”の視点で探る。

授業の計画

第1回：オリエンテーション（この授業のめざすものとは。石川・萩原）

第2回：W.S.ディスカッション（この授業のめざすものについて）

第3回：NPOとはどんな組織か

第4回：W.S.ディスカッション（NPOとはどんな組織か）

第5回：持続可能性の深部を探る

第6回：W.S.ディスカッション（持続可能性の深部を探る）

第7回：エネルギー 中部電力とどのように向き合ってきたか（HP）

第8回：W.S.ディスカッション（中部電力とどのように向き合ってきたか）

第9回：エネルギー 3.11以後、中部エネルギー市民会議（HP）

第10回：W.S.ディスカッション（3.11以後、中部エネルギー市民会議）

第11回：ネパールの首都カトマンドゥにおけるバグマティ川の再生（HP）

（途上国の都市問題）

第12回：W.S.ディスカッション（ネパールの首都カトマンドゥにおけるバグマティ川の再生）

第13回：自らと向き合う（I TIME）

第14回：W.S.ディスカッション（自らと向き合う）

第15回：全体討論・ふりかえり

成績評価と基準

レポート評価100%（ただし、出席日数50%以上を目安に入れる）

テーマ全講義を通して得たもの、感じたこと（知ったことではなく）を記述。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

私はNPOの現場の人間です。大学の専任講師ではありません。体験は伝えられますが、知識を教えるつもりはありません。

各テーマへの予習と提示されたテーマについて次の授業のディスカッションの間にレポートの提出が必要となります。

オフィスアワー・連絡先

萩原喜之 hagiwara es-net.jp
@

学生へのメッセージ

将来、環境を自分の仕事、ライフワークを考えている人の受講を希望します。また、NPO・NGOに関心のある方も大歓迎です。

「NPOの生産物は人である」のように、受講生のモチベーションアップを目的とします。

『「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要でない。』というレーチェル・カーソンの言葉のように、講義を通し、なにをどのように感じたのかを重要視します。（人は知るだけでは行動を起こさないから）

授業に際しては双方向のコミュニケーションを重視します。講師 受講者という関係ではなく、受講生の多様な意見を尊重し、相互に評価できるよう心がけます。

従来 of 授業形態とはかなり違ったものです。

ともに授業を創り上げる、意欲、積極性が必要です。

今年度の工夫

教科書

オリエンテーションにて紹介をします。必要と思われた方のみ購入してください。

参考書・参考資料等

- ・NPO法人 中部リサイクル運動市民の会：<http://www.es-net.jp/>
- ・NPO法人 エコデザイン市民社会フォーラム：<http://eem.jp/encode/>
- ・グリーンマップあいち：<http://www.gm-aichi.net/>
- ・NPO法人 地域の未来・志援センター：<http://www.c-mirai.org/>
- ・豊森実行委員会：<http://www.toyomori.org/>

授業における使用言語

日本語

キーワード